



2022年10月28日

各位

上場会社名 株式会社 田中化学研究所
 代表者 代表取締役 社長執行役員
 (コード番号 4080 東証スタンダード)
 問合せ先責任者 常務執行役員
 (TEL 0776-85-1801)
 当社の親会社 住友化学株式会社
 代表者 代表取締役社長
 (コード番号 4005 東証プライム)

横川 和史

山崎 龍太

岩田 圭一

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年5月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

2023年3月期通期個別業績予想数値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	70,000	△ 600	△ 700	△ 700	△ 21.52
今回修正予想(B)	60,000	1,600	1,400	1,000	30.74
増減額(B-A)	△ 10,000	2,200	2,100	1,700	
増減率(%)	△ 14.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	40,531	825	769	731	22.50

修正の理由

当第2四半期累計期間において、期初の予想通り生産能力に対する稼働率は5割程度となっていることに加え、苛性ソーダをはじめ各種原材料等の価格上昇や電気料金の高騰などから、業績採算面では期初の予想に比べて一層厳しい状況となっております。

一方、当社製品の主原料であるニッケル及びコバルトの国際相場が当第1四半期にかけて上昇したのち、第2四半期にかけては下落基調で推移したものの、当第2四半期累計期間の利益面で大幅な増加要因(相場関連損益:16億円)となっております。今後、期末にかけて相場関連損益がさらに増加することに加えて、為替が期初想定よりも円安で推移していることから、これら外部要因による利益の増加影響は通期でおよそ30億円を上回ると想定され、上記の通り売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益を当初予想から修正いたします。

以上の通り、主原料相場の急激な変動は業績に大きな影響を及ぼします。上記予想は、当期末までの期間においてニッケル及びコバルトの国際相場や為替相場が当第2四半期末と比較し、大きな変動がないことを前提としております。

※なお、上記の予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績等は予想値と異なる場合があります。

以上